

東
北
大

きょうかん

発行
東北大学教育学部
関東地区同窓会

事務局
〒187-0022
東京都小平市
上水本町 6-5-1-304
(小林 昭文方)

電話・FAX 042-325-2819
zelkoba304aki@kyf.biglobe.ne.jp

題字：江川 亮

リオオリンピックでの日本選手の活躍に一喜一憂し、寝不足になりながら心の高揚感を覚えたのはついこの間。冷静さを取り戻して世の中を見ると、相変わらず目を覆いたくなるような事件・事故や不条理な出来事が頻発しており、一見平和な日常の中で社会情勢の悪化や病理現象の進行に危惧を覚えているのは私人だけでしょうか。今こそ、過去の歴史と教訓を思い起こし、大勢に流されず個人が最適な判断を心がけ対処していくことの必要性を痛感しています。

母校の現況ですが、世の中のグローバル化への要請を受け、「ワールドクラスの大学への挑戦」を旗印に、里見総長を筆頭に全学部を挙げて取り組んでおり成果を上げつつあります。日々、研究に実践に取り組んでおられる関係者のご努力に対し心から敬意を表します。具体的には高橋教育学部研究科長・同窓会長のご挨拶文、堀籠副会長の「萩友会関東交流会報告」でご確認ください。

それから、昨年十二月、仙台市営地下鉄東西線が開通し、川内キャンパス（教育学部棟所在地）が仙台駅

「ご挨拶
「心の安らぎと共生・自助を考える」
「きょうかん」で繋がる」



東北大学教育学部関東地区同窓会会長
星 永揚 (教育社会 66年卒)

からとても速く便利になりました。会員の皆様ぜひ足を運んでみて下さい。懐かしい思い出に会えることと請け合いです。

さて「きょうかん」ですが、平成元年七月に設立されて以来二十八年順調に推移し会員数も増えてきています。草創期から尽力し発展を支えてこられた先輩役員はじめ会員の皆様のご支援助協に心から感謝いたします。既にリタイアされた会員の皆様には生きる力の一助として、現役真っ盛りの皆様には仕事の潤滑油・起爆剤として「きょうかん」会員の人脈・情報を活用されることをお勧めいたします。今年は二年に一度の「総会・懇親会」開催年度にあたり、十一月六日(日)午後一時から新宿区の麗澤大学東京研究センターを会場に開催されます。記念講演は「グローバル化時代の教員養成」と題し、東京学芸大学の出口利定学長にお話しいただきます。懇親会は料理に定評のある「三国」。皆様にとって懐かしい方々との再会、活力注入の充実した時間となること必定です。多数の皆様のご参加を心からお待ちいたしております。

第14回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会のご案内

第14回総会・懇親会を下記の通り開催いたします。懐かしい青春時代を共に「杜の都・仙台」で過ごされた同窓生の皆様、旧交を温め交流を拓ける絶好の機会です。前回から皆様のご都合を考え、日曜日・昼開催に変更いたしました。ご多用のことは存じますが、是非ともご出席いただきたくご案内申し上げます。

なお、出欠のご返事は、遅くとも10月25日(火)まで事務局あてお寄せ下さい。

東北大学教育学部関東地区同窓会会長 星 永揚

記

●開催日 平成28年11月6日(日) 13時より

●会場 麗澤大学東京研究センター (詳細は2ページをご覧ください)

ご挨拶
「教育学部・教育学研究科とグローバル化」



東北大学教育学部同窓会会長
教育学研究科長教育学部長
高橋 満
(教育学博士課程 '81年卒)

いま、大学はグローバル化の推進が強く求められています。東北大学も、「グローバルビジョン」を公表しています。そこでは、「学生が国際社会で力強く活躍できる人材として成長していく場を創出」することが、とくに重視されています。

このように国境を越えて学生たちが交流し、教育学を学ぶ条件が広がっています。

教育学部・研究科も、さまざまな形で教育研究のグローバル化を推進してきました。二〇一五年度現在、留学生数は、学部生で二名、修士が十一名、博士が九名となっています。

さらに、教育学部・研究科では、グローバルな研究課題として、「持続可能な地域社会のための教育」というテーマの戦略的研究をめぐり、インドネシア教育大学と共同研究を始めました。公民館は、すぐれた日本的な制度ですが、ユネスコをとおしてインドネシアはもろろん、ベトナム、カンボジア、タイなどのアジア地域から、中東、アフリカにまで広がっています。日本の公民館は、これらの国々の政策や実践のモデルとして注目されています。登米市や塩竈市、仙台市などでヒアリングを行ってきましたが、その多様性や充実した活動に強い感銘を受けたようです。この十一月には、インドネシア教育大学から三十名もの研究者が本学部・研究科を訪問し、研究上の交流を深める予定です。

これは二〇一五年度で終了しましたが、南京師範大学、台湾師範大学、台湾政治大学、高麗大学の連携のもとに引き続き「アジア教育指導者コース」を開催しています。とくに、一つの課題をめぐり、文化も、言語も異なる学生たちが一つのチームを編成し、調査や討議を通して考え方をまとめ、プレゼンテーションをする授業は刺激的な学習の機会となっています。

言うまでもありませんが、東北大学は、その創立以来、「研究第一」の伝統、「門戸開放」の理念、「実学尊重」の精神を大切にしてきました。

第14回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会

- ①日 時 平成28年11月6日(日)13時より(12時30分受付開始)～17時
- ②会 場 麗澤大学東京研究センター
- ③総 会 13時から
- ④講 演 13時30分 ★講師 出口 利定氏
(東京学芸大学・学長)
★演題「グローバル化時代の教員養成」
- ⑤懇 親 会 14時30分 「三国一」:(麗澤大学東京研究センター同ビル地下)
- ⑥会 費 5,000円(当日受付にてお支払ください)
- ⑦申 込 10月25日(火)までに、同封の返信用ハガキで出欠をお知らせください。
- ⑧問 合 せ 同窓会事務局 小林 昭文 TEL・FAX 042-325-2819

インフォメーション

☆講師：出口 利定氏のプロフィール (本人原稿のママ掲載)
1949年12月21日、鹿児島県生まれ。東京学芸大学教育学部～東北大学大学院・修士課程～同博士課程単位取得退学。1980年4月・東京学芸大学講師～助教授～教授。2014年4月・東京学芸大学 学長。4人兄弟の4番目、姉(中学音楽)、兄(中学英語)、姉(高校音楽)と兄弟全員が教員。父も中学校校長と、大変悲惨な家族環境で育つ。趣味は芝居・映画鑑賞、商店街・アパ地下散歩、料理。好きな俳優は山崎努、壇蜜。

☆会場：麗澤大学東京研究センター
麗澤大学東京研究センターは、新宿副都心の新宿アイランドタワー4階にあります。
所在地：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー4階
電話：03-5323-6196
アクセス：JR 新宿駅西口より徒歩8分。東京メトロ丸の内線西新宿駅下車すぐ上。
地図は大学のHP <http://www.reitaku-u.ac.jp/> 交通案内にあります。

とくに、「門戸開放」の理念は、東北大学が多様な文化や価値観、バックグラウンドをもつ人たちの集う場となることをめざす考え方でもあります。グローバル化は新しい課題ではありますが、同時に、東北大学が歴史的に大切にしてきた理念を実現する機会でもあります。

「教育学部の最近の動静」

(1) 震災子ども支援室(Sーチル) Sーチルとは、二〇一一年九月にある個人からの震災遺児・孤児支援を目的とした向こう十年間の寄付金を原資に、東北大学大学院教育学研究科が立ち上げた活動です。

東日本大震災で両親を亡くした子ども(震災孤児)が二五三人、いずれかを亡くした子ども(震災遺児)が一五八六人の多数に上ります。活動では震災遺児・孤児支援を優先しながらも、支援対象を、震災で大事な人やものをなくした子どもと、子どもをとりまく大人と幅広くとらえ、多様で柔軟な支援を目指して活動しているとのこと。子どもや保護者を対象とした電話相談や面接活動、里親サロン・遺児家庭交流サロンの開催、調査・講演・シンポジウム等の実施と多岐にわたり、しかも時間のながれを意識しながら長期的な活

動を目指しているとのこと。 (東北大広報誌 No.76、加藤道代教授、震災子ども支援室長の文を要約)

私も取組みを評価すると同時に何らかの形で支援したいものです。(2) 教育学部がより便利に 仙台市営地下鉄東西線が平成二七年十二月開通しました。教育学部は仙台駅で乗車し、三つ目の「国際センター」で下車、徒歩十分と便利になりました。青葉山・広瀬川を控え四季を通じて風光明媚な川内キャンパス。皆様、一度お出かけください。

「東北大学関東秋友会報告」

東北大学教育学部関東地区同窓会副会長 堀籠 英夫(「教育社会」61年卒)

「109周年秋友会関東交流会に参加して」

七月二十四日、丸の内のサピアタワー大会議室で多数の参加者のもと開催されました。例年の二割増の参加者(430名)との事で、年々参加者が増加傾向にあるようです。懇親会への参加者も同様大幅に増え今年は一四〇名の参加者があったようです(教育学部出身者の参加は例年五・六名でしたが今年は一四名が参加)。皆さん仙台での学生時代を懐かしみ、親しく懇談されてたようでした。総長や副学長等も皆さん同窓という事で気楽に懇談できるのがこの会の良いところ。例年この時期に開催

されますので、同窓生の皆様方に参加をお勧めします。卒業生も昭和XX年卒、平成XX年卒と言う呼称が混在してはいますが、XX年卒と言う呼称からXX期卒にしてはどうかと言う意見も出ているようです(元号が変わった場合でも、大学設立後卒業までの経過年数が直ぐ判る)。例えば昭和の卒業生は卒業年度に一八をプラスするとXX期卒になります。私の場合は昭和三六年卒なので、五四期卒になります(大学設立後五四回目の卒業生)。

本会は里見総長の大学の現状紹介に始まり、青木副学長の秋友会活動紹介、引き続き、文学研究科の佐藤教授と農学研究科の斎藤教授による記念講演がありました。

里見総長は総長就任四年になり、四年間の歩みを紹介されました。就任当初大きな目標の一つに「ワールドクラスの大学を目指す」とありましたが、この目標は着実に達成しつつあるとの印象を受けました。二〇一五年度まで世界の大学ランキングで一〇〇番以内に入ったことがありませんでしたが、二〇一六年度は見事、東大、京大、阪大、東北大、東工大と日本から五大学が一〇〇番以内に入りその実績が評価されるに至ったようです。(The Times Higher

Education)による大学世界ランキングから)

これは目標を以って大学改革を推し進めグローバル化等実行に移した結果とおもわれます。外国人留学生も八八ヶ国から二千名弱の優秀な留学生を迎え入れており文字通りグローバルな大学へと向かい進みつつあるとの印象を受けました。今後は世界三〇傑以内を目指したいとの生きのいい発言も聞かれました、楽しみです。

秋友会の活動については年々活発になってきており、その成果は秋友会交流会への参加者数の増加が如実に物語っています。

記念講演は例年通り大学でOUTSTANDINGな研究をしておられる文系の先生と理系の先生から研究報告がありました。今回は文学研究科の佐藤教授から「蛇形のアマテラス」変貌する日本の神々」と題する講演があり、神々や幽霊といったユニークな切り口を通して、日本の思想や文化についてお話をいただきました。

また、農学研究科の斎藤教授からはヨーグルトで健康と言う身近な話題を通してプロバイオティクスを利用した大腸がん等、腸疾患予防や治療科学などについて紹介がありました。

同窓生の声

「新しい枠組みづくり」

東北大学教育学部同窓会仙台支部長
渡邊 宣隆 学校教育 68年卒

過日地元紙に宮城県の「シールズ」が解散したニュースが五輪の話題に隠れ小さく載っていた。一昨年来東京を中心に若者たちの活動が話題となっていたが、十八歳選挙が認められた最初の国政選挙の話題に隠れ、陰をひそめてしまったようだ。その選挙騒動中は「選挙に行こう」というメッセージを伝えるため各党は若者を意識したコンテンツを作って配信していた。「とにかく若者は選挙へ行け」とか「政治に関われ」というメッセージが強く、若い人に向けて何をするのかという点が抜けていたと指摘されている。シールズ代表の若者は次のようなことを述べていた。各政党の戦術の中心は政策の内容というより「人情」に訴えるのが多かったようだ。どうやって新しい人に少しでも選挙に関わってもらうか、政治の担い手になってもらうかという事を真剣に考えなくてはならない。有権者も政党も「選挙に行こう」だけでなく「選挙に関わろう」「政治に関わろう」と言っていくことが必要ではと考えさせられた・・・と。

耳に痛い言葉であった。故塚本哲人元学部長さんの同窓会全国展開の意を受けた故藤井黎先生が始めとしてスタートした仙台支部は、今その思いを受けて、会員の範囲を拡大して、新潟を含む東北地区居住者と賛同者にする手続きに入っている。今までも趣旨賛同者として宮城を除く東北地区から十八人の会員登録があるが会員になりやすい環境の整備を図るのがねらいとなる。

これら、変更に関するこれまでの進め方を振り返ってみると「情」に訴えることに偏り、支部としての活動目的をどう具現化していくか、東北支部という新たな体制の中で懇親以外に何を強力に進めたいのか説明不足の感を否めない。本部同窓会と連携して進めている現役学生への支援事業等の進展状況や、新たに本部同窓会が進める学生支援事業との連携を視野に入れた展望等の具体的な紹介・提示を全会員にしていかなければと改めて決意した。

「漢詩との出会い」

取手市、幕末維新道墨展

小玉 幸彦 教育社会 68年卒

私は取手市で詩吟の会「霞朗詠会」(本部は水戸市)に加入して九年になった。水戸一高に入学した折、渡辺医院の院長のご母堂が漢籍に造詣

が深く、徳川光圀公(義公)と徳川斉昭公(烈公)の名詩をご教示して頂いた。その後も折にふれて漢詩に接するたびに、歴史の舞台で偉人達が五言絶句や七言絶句に自らの生き様や信条を詠い上げた見事さに感動している。漢詩を詩吟のように吟詠できるようなしたのは菅原道真と言われている。

江戸末期から明治にかけての時代の変革期、水戸の徳川家はベリール航による時代の荒波に翻弄された。東京の墨田公園に行くと、墨田区役所に勝安芳(勝海舟)の銅像が建っている。隣接する墨田公園に入ると藤田東湖の「正氣の歌」の碑を見ることが出来る。先頃七月の二十一日、取手市ウエルネスプラザ多目的ホールを会場に幕末維新道墨展が開催され、西郷隆盛、吉田松陰、坂本龍馬などの幕末を舞台に活躍した個性が輝く道墨を見ることができた眼福に感謝したい。

日本にはこのほかに和歌や俳句、川柳など、墨と和紙による記録と保存が可能な文化遺産が数多く残されている。また、絵画等の世界的な文化遺産の保存にも和紙と墨が活用されているとも聞く。こうした状況を踏まえると、今後ますます日本の伝統技術の継承が重要になってくると

考える。

「福島は歩みだす」

(生徒学習交流会の取り組み)

阪内 宏一 教育行政 69年卒

東日本大震災が発生してから五年が過ぎていますが、福島という地名を耳にすると、放射線の怖さをイメージする人は決して少なくありません。「風評」はなかなか払拭されていないように感じています。こうした中で、福島には次のような取り組みがあることをご存知でしょうか。それは、福島県PTA連合会と水俣市PTA協議会が主催する事業で、福島と水俣の中学生がお互いの地域を訪問しあい、水俣病や放射線など環境問題についての学びを通して、人としての生き方を考え、破壊されたふるさとを復興していこうという交流学習の取り組みです。

この取り組みは、水俣市在住で、中学生の子どもをもつ郡山市出身のお母さんのふるさと復興への思いに端を発して実現したものです。しかしなぜ福島と水俣の交流なのか。その背景には、震災時の水俣市長の緊急メッセージがありました。そのメッセージは、水俣病の問題に長く苦しんできた水俣の体験から、放射線に関わる風評被害からの偏見や差別の問題をなくしていく上で、

必要ではと考えさせられた・・・と。

冷静に正しい情報を共有することの大切さを内外に訴えるものでした。

福島も水俣と同じような時間を迎えるようになる。当時の福島県PTA会長は、水俣病に取り組む人々の話に揺り動かされ、ふるさとの未来を子どもたちに託そうと、平成三五年一二月、福島の中学生の水俣訪問による「交流学習会」を行ったのです。以後交流学習会は継続され、四回目となる今年も、七月下旬に福島市の青少年施設で、二四名の水俣の中学生と四九名の福島の中学生在が四日間

にわたり講義の受講や体験活動を行い、その学習成果をもとに班別討議を重ね、最終日に発表会が行われています。

『ふたつのヒトラー』 笹川 智恵子 (教育哲学 69年卒)

今後とも、取り組みに参加した子どもたちが、いきる力を確かなものとし、ふるさとの明日を切り開いていくことを願っています。

てくださった對馬夫人千恵子さん(行政)からの情報でした。

領土拡大の野心に燃え、筆舌に尽くしがたい圧政と狂気の殺戮を続けたヒトラーはドイツ。その体制を支えたのは多数の国民、とりわけ家計をあずかる主婦であったといえます。そんななか、正しいドイツを築くべく、良心と信仰を抛りどころに弾圧を恐れず抵抗した市民たちの勇氣ある姿を、ドイツ教育史専門の對馬氏は、きめ細やかに温かな眼差しで拾いあげ、知らせてくださいました。地味ではありますが、版を重ね、インタビューや講演のオフアームもあり、反響はじわじわと広がっています。

そして最近、この著書とまるで合わせ鏡のような映画「帰ってきたヒトラー」を観ました。現代社会よみがえったヒトラーは、ものまね芸人と間違われてTV界で大ブレイク。戸惑いながらも人気者となった彼はさまざまな場面であつてのプロパガンダを声高に機関銃のように繰り返して、人々の心に食い込んでいきます。

一人の老婦人がほんもののヒトラーだと気づき、最後に怖いどんでん返しが・・・

このような映画がドイツで制作されたことへの驚きと、「選挙で国民から選ばれた」と叫ぶヒトラーの姿

が現在の政治家と二重写しになる不気味さを覚えたひとときでした。こちらもおススメです。

「数年前からのトレッキング」 伏見 陽児 (教育心理 75年卒)

六十五歳の定年まであと一年余り。定年後を見据えてではないが、数年前からトレッキングに凝りだした。冬は低山、夏は二千〜三千m峰に出かけている。穂高岳や北岳などに登ると言ってもクライミングをするわけではなく、一般登山道を歩くだけ。でも一部でひんしゆくをかつている中高年登山そのものである。

先日のテレビでも、山の日の制定に伴い特に高齢者の遭難の増加が懸念されている旨が報道されていた。現状でも山岳遭難に占める六〇歳以上の遭難者数は五〇%に達するのだという。報道から「高齢者は家で温順しくしていなさい」という暗黙の

圧力を感じるのは私だけだろうか。高齢遭難者ほどればど多いのか、登山人口に占める遭難者比率を見てみよう。近年の登山人口は八六〇万人。六〇歳以上が三六〇万人、六〇才未満が五〇〇万人だ。一方、二〇一四年の遭難者数は六〇歳以上が約一四〇〇人、六〇歳未満も約一四〇〇人である。

六〇歳以上の登山者に占める遭難者の発生率は、六〇歳未満登山者のそれに比べて確かに高い(二・四倍弱)。けれど二倍も三倍も違うわけではない。むしろ年齢にかかわらず遭難事故は起っていると考えた方がよい。高齢者はかりを苛めないでほしいものだ。

もちろん歳をとれば身体が弱るから、それに対する備えをしておく必要はある。私は、無理のない登山計画を立てているし、ヘルメット着用推奨山域ではヘルメットをつけるなど装備にも注意を払っている。一般登山道でも滑落や道迷い、突発的疾病的危険はあるから、もしもに備えて山岳保険にも入っている。

家で温順しくするだけでなく、少なくともあと数年はトレッキングを楽しみたいと思っているのだが。

「近況の報告」 北島 善夫 (心身障害学 85年卒)

千葉大学教育学部に赴任して二十四年目を迎えています。障害児教育に関連するスタッフは五名ですが、私が一番年上で勤務年数も一番長くなりました。同じ職場に長く勤められるのは幸せなことなんでしょう。若い頃は思いもしなかったことを感じたりしています。

私は附属特別支援学校の校長を兼務して四年目になりました。これまでの学校との関わりは、研究の助言者として年に数回学校を訪れる程度でした。また、教職員との付き合いもほとんどありませんでした。いわば、学校を表から見ていたわけですが、校長になって学校を裏から見られた感じです。子ども達の学びのためには、本当に多くの人が、多くの事柄が関わっていました。そして、日々色々なことが起きています。それらに対応する先生方は、とても忙しい日常を子ども達のために奮闘しています。これには、頭が下がるばかりです。学部生や院生の指導に、もつと情熱をもつて一生懸命取り組まねば、と思ひ知らされています。

特別支援学校の生徒は、高等部を卒業するとほぼ全員が就職していきます。その意味では、社会に送り出す、社会人として巣立たせる役割を担っています。社会は時代と共に変わっています。具体的には、就職先やそこで求められる力も変わってきています。他方では、そのような時代や社会の変化に影響を受けない普遍的に大切な教育目標もあります。両者を勘案しながら、子ども達や先生方、そして保護者が生き生きとした活力ある学校を作れたらと思つて

います。任期は二期五年なので、残された時間は短いのですが、精一杯努めようと思ひます。

特別支援教育は、教育関係のなかでは注目を集めている分野です。多様性を認めるインクルーシブ教育が通常教育の中でも当たり前になる社会になってほしいと思つています。そのために自分ができることは何なのか、自問自答しながら日々過ごしています。

トピック・ニュース

万緑の秋保で「苗床」有志の会

家根 敏明(教育社会 57年卒)

「苗床」・1

2016年G7サミットの財務関係者会議が開催された秋保温泉郷でその約一月後の6月28日に、旅館「蘭亭」で旧教育社会学・社会教育学の同窓会「苗床」有志の会を開催致しました。仙台・東京の会員各位のご努力で有志15人と佐々木徹郎先生のご参加を頂き総勢16人の出席となりましたが関係の方々には心からお礼を申し上げます。

さて当日の会場はそこに嬉しく懐かしい邂逅があり、旧交を温める光景に一人の感慨を覚えました。

とくに今回の会合では佐々木先生から社会学研究室の解消に至る43年間の学術的成果と研究目録の内容を

懇切に解説して頂き、各研究課題の資料保存の状況やその追跡プロセスまでご説明いただいた上、研究室の折々の催事写真や記念撮影に至るまでCD画像でご紹介頂きました。2時間にわたる先生のご講話を伺い、過ぎたる日々の生活の起伏が克明にかつ懐かしく蘇るとともに、佐々木先生の研究活動に寄せる誠実な信念と情熱を痛感する機会となりました。

教授が洪沢敬三氏の常民文化研究所で習得された「てるてる坊主」のお遊戯で盛り上がるのが常でした。熱心に卒論指導を頂いた大学院の勝又氏、就職相談に藤井黎氏、就職後東京生活で親交の永い根守、酒井、河田、沢口氏らのこと、横浜港から留学を見送った日の加茂さんの表情、上京のたびにお誘いを頂いた田原音和先生の思い出もいまだ鮮明です。既に天の星となられた我が懐かしきこうした「苗床」諸氏の回想は今も尽きるところを知りません。

「苗床」・2

振り返れば昭和30年に教育社会学・社会教育学専攻の一期生として進学した片平校舎の研究室は気風において誠に自由闊達で開放的でした。

金曜朝、夜行でゼミに到着される田辺寿利教授は持参のポットの茶を啜り乍ら磊落にデュルクム論議を楽しまれ、調査打ち上げには竹内利美

蔓延する情報化社会の変容の中で新しい教育秩序の構築に取り組む筈の教育社会学の消滅は驚きでしたが、今また「苗床」から社会学の新理念を構築する夢も無謀と言えないかも知れません。



立派に成長した苗床
(秋保温泉「蘭亭」にて 平成28年6月28日)



草創期の元気な若苗
(昭和31年2月20日)

第13期 役員 (○印新任)

(以下の方々がお世話役でした)

- 会長 星 永揚 (社会) '66
- 副会長 堀籠 英夫 (社会) '61
- 事務局長 阿部 孝 (行政) '69
- 幹事 小林 昭文 (哲学) '76
- 田沢 良介 (心障) '62
- 横館 厚太 (学校) '67
- 石森ミネ子 (学校) '68
- 小玉 幸彦 (社会) '68
- 小熊 順子 (心理) '69
- 笹川智恵子 (哲学) '69
- 徳田 英明 (心理) '69
- 木戸 裕 (哲学) '74
- 細測 富夫 (心障) '79
- 長沼 真吾 (行政) '88
- 小林 巖 (心障) '92
- 菊谷 邦雄 (社会) '60
- 高橋 敏行 (心障) '62
- 江川 亮 (心理) '55
- 大曾根良衛 (哲学) '55
- 菊地 明 (学校) '55
- 小林幸一郎 (社会) '55
- 越河 六郎 (心理) '57
- 家根 敏明 (社会) '57
- 荒木 廣 (行政) '58



●第12期 一般会計収支決算書 (平成24年11月～平成26年10月)

1. 収入の部 (単位: 円)

科目	A 予算額	B 決算額	差異 (B-A)	摘要
1. 維持会費	540,000	492,000	▲ 48,000	会費納入者 3,000円×164名
2. 寄付金	0	0	0	
3. 雑入	5,000	380	▲ 4,620	利子
4. 繰越金	581,263	581,263	0	
合計	1,126,263	1,073,643	▲ 52,620	

2. 支出の部 (単位: 円)

科目	A 予算額	B 決算額	差異 (B-A)	摘要
1. 運営費	400,000	40,410	▲ 359,590	第12期役員会等
2. 活動費	450,000	397,613	▲ 52,387	総会・役員会の開催準備、「きょうかん」の作成等
3. 需用費	150,000	139,564	▲ 10,436	「きょうかん」発送費、通信費等
4. 予備費	126,263	0	▲ 126,263	
合計	1,126,263	577,587	▲ 548,676	

3. 第13期への繰越金

収入決算額 1,073,643円 - 支出決算額 577,587円 = 496,056円

●第13回 総会・懇親会収支計算書 (平成26年11月9日開催 於麗澤大学東京研究センター・三国一) (単位: 円)

(1) 収入の部			(2) 支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
総会・懇親会費	190,000	5,000円×38名	会場費・宴会費	206,000	麗澤大・三国一) 支払
雑入	67,664	一般会計より	謝礼・手土産等	51,664	講師・来賓、ブルーグラス分
合計	257,664		合計	257,664	

●第13期 収支予算 (平成26年11月～平成28年10月)

1. 収入の部 (単位: 円)

科目	第13期予算額	第12期予算額	対前期増減	摘要
1. 維持会費	540,000	540,000	0	会費納入者3,000円×180名
2. 寄付金	0	0	0	
3. 雑入	5,000	5,000	0	利子等
4. 繰越金	496,056	581,263	▲ 85,207	
合計	1,041,056	1,126,263	▲ 85,207	

2. 支出の部 (単位: 円)

科目	第13期予算額	第12期予算額	対前期増減	摘要
1. 運営費	300,000	400,000	▲ 100,000	役員会費等
2. 活動費	460,000	450,000	10,000	総会、会報等
3. 需用費	160,000	150,000	10,000	会報送付、通信費等
4. 予備費	121,056	126,263	▲ 5,207	
合計	1,041,056	1,126,263	▲ 85,207	

【第13期の活動方針】

会員相互の親睦と交流を本旨とし、本会の一層の充実・発展をめざし、会員の意見、提案を反映させる「会員参加の同窓会」を運営の基本とする。この趣旨にもとづき、会員の理解と協力を得ながら、次の活動を堅実に継続推進する。

- (1) 会員相互の交流を積極的に進め、活動の充実と会員拡充を図る
- (2) 会報「きょうかん」の発行
- (3) 第14回総会・懇親会の開催
- (4) 東北大学教育学部同窓会本部・他支部及び東北大学校友会との連携

きょうかん 第13期 (平成26年11月～平成28年10月) 維持会費協力のみなさま

納入ありがとうございました。(189名、敬称略、専攻別・卒業年度順)

- | | |
|---|---|
| <p>【教育哲 18名】
大曾根良衛 沼田裕之
若林 滋 川田泰之
橋本紀子 伊藤忠篤
笹川智恵子 古橋康子
鈴木重男 玉田文男
木村俊二 戸張嘉勝
木戸 裕 小林昭文
福原 武 伊藤久徳
西山 拓 水越丈晴</p> <p>【教育社会 46名】
小林幸一郎 家根敏明
野原忠博 長谷川高
菊谷邦雄 石塚米子
堀籠英夫 杉浦洋一
西村孝雄 吾田宣明
浅野 勉 佐藤門哉
鈴木俊之 中林勝男
阿部 実 手塚 紘
星 永揚 佐久間孝正
塩入 肇 千條 武</p> <p>【教育心理 29名】
大村 実 江川 亮
越河六郎 磯部裕子
奥泉英夫 位田尚隆
黒住ひろ子 村林奈代子
吉岡 忍 三島建夫
菅田美紀子 小熊順子
黒須俊夫 佐藤良子
関野いく子 寺嶋洋平
伏見陽児 出口利定
鷺尾純一 中村美恵子
吉村葉子 伊藤良子
寺島ひろ子 大森 茂
小滝 威 田口有理
吉田恵子 馬場章信
野村正宣</p> | <p>【心身障害 15名】
庄司光徳 小原弘三
高橋 哲 鈴木貞夫
高橋敏行 田沢良介
大沼直紀 高橋良彰
郷家和子 落合俊郎
貝見芳房 山森伸子
細淵富夫 伊藤友彦
北島善夫</p> <p>【学校教育 39名】
板井啓修 及川 元
佐藤邦男 安田兼次郎
堀内純子 梶原 葉
菊地 明 篠 博久
高橋渥子 渡辺健郎
大金武文 柴田洋子
高橋弘子 馬場 順
石倉正身 猪又和子
田中重富 大原亮子
加藤万喜子 高橋睦人
村井綾子 戸塚 馨
永井勝利 石崎謙二
金野久子 渡辺成男
後藤 光 渡辺登美子
落合英彦 鈴木保一
吾妻順子 山崎保雄
横館厚太 石森ミネ子
富水和彦 細谷靖男
吉成 明 鬼 宗久
星 重昭</p> <p>(平成28年7月9日現在)
以上合計189名</p> |
|---|---|

編集後記

▼国内では、地震と台風が甚大な被害。施設のたくさんの方の障害者を狙った殺人事件も。暗澹たる思いで報道に見入る。遠く南半球では、スポーツの祭典。国別のメダル獲得数のニュースとともに、選手の一言一投、足、手に発信。選手の喜びや口惜しさをわが身に重ねて鼓舞し涙する。「君が代を大きな声で歌えない」かもしれないが、若い日本人選手の手は礼儀正しく爽やかな発言と行動は、世界の人々に十分感銘を与えたことと思う。▼前号に引き続き、教育学研究科長高橋満先生から「グローバル化」の

具体的実践の成果と今後の目標が示される。教育学部の学生諸君が、世界で、そして、地域で、望まね必要とされる人材に育ち活躍することを期待する。堀籠副会長からは東北大学が世界で上位に入ったという喜ばしい報告も。礼儀正しく爽やかな発言と行動で世界に感銘を与えてほしい。▼「同窓生の声」如何だったでしょうか。今回も幅広いジャンルから内容の濃い情報、名作の数々をご投稿いただきました。十一月六日の総会時には同窓の出口利定氏(東京学芸大学長)のご講演を企画しました。お誘い合わせておいでください。(事務局 小林)

第14期(平成28年11月～平成30年10月) 維持会費納入のお願い

東北大学教育学部関東地区同窓会は第13期を終了し、第14期活動に入ります。同窓会活動は、会員の皆様からご協力いただいております維持会費(2年間で3,000円)により支えられております。第14期もご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

つきましては、同封いたしました「郵便振込票」で平成28年12月末までに、維持会費の納入をお願い申し上げます。

東北大学教育学部関東地区同窓会
会長 星 永揚

●連絡先 事務局 小林 昭文
TEL・FAX 042-325-2819
メール zelkoba304aki@kyf.biglobe.ne.jp